

コレラ碑

本誌 2016 年 4 月号で紹介したようにわが国におけるペストの流行は、ペストの媒介をする鼠の駆除を行った公衆衛生行政に依って抑えられた¹⁾。また 1899 (明治 32) 年 6 月、横浜港に入港した“亜米利加丸”の船倉で苦しんでいた中国人の船員からペスト菌を検出し、国内流行を水際で防いだ野口英世の功績は、渡辺淳一の著書『遠き落日』に詳しく紹介されている²⁾。

一方、同じ感染症でもコレラの蔓延は防ぐことができず、日本で初めてコレラが流行したのは 1822 (文政 5) 年で、1858 (安政 5) 年には江戸だけで 20 数万人の死者を出す大流行があり、明治になってまたたび流行した。

米沢市赤芝町の羽黒神社境内に、1879 (明治 12) 年に建てられた虎列刺菩薩碑がある。当時は、野菜・食器を洗うのは勿論、飲み水も川水を利用していた時代で、コレラは下流の集落に蔓延したことは想像に難くない。石碑はこうした状況のもとで建てられ、赤芝の村民が、観音菩薩に姿を変えたコレラ菩薩に、“村中安全”とコレラの終息を祈願し、あわせて死者の冥福を願ったものと思われる³⁾。(写真 1)

横浜にある久保山墓地 (横浜衛生局管理) の K18 区に、高さ 180 cm ほどの三角形の自然石に“悪疫横死諸群霊墓”と刻まれた碑には、“記日明治十九年流行病之際無葬者残骨参百餘哀不忍見有志者謀久保山埋葬明治廿六年春彼岸為有無縁於大光院當施餓鬼大法会建碑云云”と 4 行の漢文が見られる。

1886 (明治 19) 年、コレラによる死者は全国で 108,405 人と厚生省医務局の『医制百年史』にある。横浜でも多くの患者が死亡し、そのうち無縁者の残骨 300 余を埋葬、1893 (明治 26) 年に大光院で大法会を行い、碑を建てたということであろう。(写真 2)

もうひとつ“傳染病死亡者之墓”と刻まれた墓が、K07 区にある。1 m ほどの高さの四角い墓石の側面には“自明治廿年至同三十年、三百九十一名合葬”と記されている。崖際の墓石の前に立つと墓地内を吹き抜ける風は冷たく、かつての感染症 (当時は伝染病) の怖さを物語るだけでなく、苦悶のうちに落命した病死者の怨念が伝わってくる。(写真 3)



写真 1 虎列刺菩薩碑 (米沢市赤芝 羽黒神社)



写真 2 悪疫横死諸群霊墓 (横浜市 久保山墓地)



写真 3 傳染病死亡者之墓 (横浜市 久保山墓地)

■ 参考資料 ■

- 1) 諸澄邦彦, 鼠塚, Isotope News, No.744, 27 (2016)
- 2) 渡辺淳一, 遠き落日, 角川書店 (1979)
- 3) 米沢市役所: <http://www.city.yonezawa.yamagata.jp/1156.htm>

[日本診療放射線技師会 諸澄邦彦]